

[平成30年 決算審査特別委員会(まちづくり分科会 第2日)]-[09月27日-09号]-P. 269

◆委員(織田勝久) 私は、都市計画道路の整備について伺ってまいります。

まず1つ目、平成29年度の都市計画道路の整備にかかわる事業の当初予算額と決算額について、宮前区内の工区について同様の内訳を伺います。

◎鈴木健司 道路整備課長 都市計画道路等の整備についての御質問でございますが、平成29年度の都市計画道路等の整備にかかわる予算現額につきましては約66億4,300万円、支出済額に翌年度繰越額を加えた執行額は約54億7,344万円でございます。そのうち宮前区に計上した当初の見込み額は約1億3,258万円、執行額は約1億2,046万円でございます。以上でございます。

◆織田勝久 委員 宮前区内についてはそこそこの執行率ということだと思いますけれども、箇所によってはいろいろ課題があると思っています。それで、都市計画道路久末鷺沼線、市道宮前6号線について伺いますが、改めて供用開始時期と進捗状況について、また、現状の課題について伺っておきます。

◎鈴木健司 道路整備課長 市道宮前6号線についての御質問でございますが、本路線につきましては、野川住宅前交差点から久末交差点までの延長約780メートルの区間で事業を進めており、平成29年度末の用地取得率は約82%でございます。現在、この区間にある南野川橋につきまして、かけかえに必要な用地の確保など、整備に向けた準備を進めており、占用物件の移設等の準備工事に平成31年度から着工し、かけかえ工事については平成34年度の完成を見込んでおります。本路線につきましては、第2次道路整備プログラムにおける平成37年度までの完成を目指し事業に取り組んでいるところでございまして、残る区間における早期の工事着手に向け、用地の取得を進める必要があることから、引き続き地権者の御協力を得られるよう鋭意交渉を進めてまいります。以上でございます。

◆織田勝久 委員 少しずつは進んできたということなのですが、ただ、御案内のとおり、鷺沼を経由して尻手黒川線にアプローチをする路線であります。懸案の聖マリアンナ医科大学病院への直通も10月1日から走ることです。せんだって東急バスが東山田駅にもバスを走らせるということも明らかになったわけですね。非常に重要な路線であります。それで、南野川橋が一つの大きな懸案だということはよく存じておりますし、そのところに集中的に取り組んでいただいているということで、これはぜひお願いしたいのでありますけれども、ただ、いずれにしても、今の道路整備プログラムのお尻が平成37年になっていまして、その間でという時間軸、せつかく橋が平成34年度ということでもありますから、少しでも早く供用ができるように取り組みをお願いしたい。用地の買収についてはあらあらめどがついているということから、あともう一つは、マンション間を通るといふ、マンションの皆さんの駐車場の問題がということでありましょうけれども、それも平成37年までいいよということじゃなくて、早目に決着をしていただく、そういう努力もしていただいて、本当に一日も早く供用開始ができるように、これは要望をしてお

きます。

次に参ります。都市計画道路横浜生田線水沢工区、これも再三質問してまいりましたけれども、水沢工区の供用と都市計画道路梶ヶ谷菅生線の整備について、改めてその期待される効果の発現内容について伺います。鷺沼駅周辺再整備事業との整備の関連についても伺っておきます。

◎河合征生 企画課長 都市計画道路の整備効果についての御質問でございますが、初めに、横浜生田線水沢工区の整備効果につきましては、向ヶ丘遊園駅菅生線や稗原線など、横浜市と連絡する道路の選択肢が広がり、交通の分散化が図られることや、災害など緊急時における道路の多重性や代替性に寄与するものと考えております。次に、梶ヶ谷菅生線につきましては、本市の主な幹線道路である尻手黒川線を補完するとともに、鷺沼駅周辺を含む宮前区内の地域の交通ネットワークを構成する路線の一つでございます。その整備効果としましては、尻手黒川線の交通の分散化が図られ、区内の移動性の向上に寄与するものと考えております。以上でございます。

◆織田勝久 委員 今御答弁いただきましたとおり、特に横浜生田線水沢工区につきましては、交通の分散化、それから災害などの緊急時の道路の多重性、代替性ということですよ。それで、これは改めてですけれども、稗原交差点と犬蔵交差点と、あと清水台交差点、その3カ所がボトルネックということで、それぞれ都市計画道路の整備をしていただいているということですよ。犬蔵と稗原についてはとくに供用が開始されていますけれども、ただ、これは本当に、犬蔵交差点が土日含めてすごく渋滞をしてしまっているわけですよ。ですから、ここの清水台交差点、北部市場の脇を抜ける、たかだか70メートルですけれども、横浜生田線水沢工区、ぜひここをしっかりと整備をしていただきたいと思います。とにかく、犬蔵交差点は土日、それから平日は犬蔵小学校から尻手黒川線を通じて犬蔵2丁目に帰る子どもたちでその時間も渋滞するという現実がありますので、ぜひ現場も建設緑政局の皆さんにぜひ確認をしていただいて、そういう意味合いも含めて、水沢工区の工事をぜひお願いしたいと思います。

続いて、同じ水沢工区でありますけれども、平成33年度に供用の開始と議会の答弁でも明らかになっておりますし、今の道路整備プログラムでもそのような時限が明らかになっているわけですが、改めて進捗状況について伺っておきます。それから、これも議会で再三指摘してまいりましたけれども、これは横浜市側ですけれども、明らかに公有地に立つ道路建設反対の看板の撤去を求めてきましたが、その対応についても伺っておきます。

◎鈴木健司 道路整備課長 横浜生田線水沢工区の進捗状況についての御質問でございますが、本事業につきましては、横浜市と連携し、昨年度から交通量の推計や整備効果の検証を行っており、その結果を踏まえ、横浜市で住民説明会を年内を目途に開催する予定と伺っております。引き続き、横浜市民の方々の御理解が得られるよう、同市と連携し、道路整備プログラムに示されている平成33年度までの完成を目指し、事業に取り組んでまいります。次に、横浜市内に設置されている看板についてでございますが、これまでも横浜

市に適切な対応を要望しているところでございます、引き続き同市と調整してまいります。以上でございます。

◆織田勝久 委員 御答弁いただきましたけれども、これは都市計画道路ですから、これは釈迦に説法でありますけれども、横浜市、川崎市がともに連携するというのも変な話ですけれども、要は、道路の選択肢、交通の分散化、それから災害などの緊急時における道路の多重性、代替性、これはお互いさまなわけでありまして、さっきの犬蔵交差点の渋滞も半分以上は横浜ナンバーの車なんです。そういうことも含めて、横浜市の一部の地域の皆さんの典型的な地域エゴでありますし、これについては、これは都市計画決定されているのが昭和39年でしたか、その道路でありますから、もう一刻も早く70メートルをしっかりと整備をしていただくと。これは横浜市のほうにもしっかりと働きかけをしていただきたい。それから、公有地に立っている看板なんです、多分川崎サイドであればこんなことはあり得ないと思うんですけれども、公有地に堂々と反対という看板が立っていて、それが放置されているという状態がずっとあるわけですね。あの看板というのが一つ一つの反対のシンボルとなっているんだと思いますけれども、まず、この看板の撤去をしっかりと求めるということも、これは議会の中で何回か指摘をしてきましたけれども、しっかりお願いしたいと思います。担当の職員の皆さんの御苦勞は御苦勞で理解いたしますけれども、しっかりと進めていただいて、都市計画道路ですから、やはり広域的に非常に公共性が高い、そういう意味合いも含めてしっかりと対応していただきたい。それで、大変失礼な言い方ですけれども、今のままでいくとどうも本当に平成33年度に供用が開始できるのかどうか、正直ちょっと不安な状況もありますので、横浜サイドとしっかりと議論をしていただいて、いろんな対応を考えていただくと。どうしても話が通らなければ、最悪、強制代執行という考え方もあるわけですから、これはやはり公共性という意味を鑑みてぜひ取り組みをしていただきたいと、要望を申し上げます。

それからあと、次は5番目に行きますね。これも議会ですずっと指摘をしてまいりましたが、梶ヶ谷菅生線と向ヶ丘遊園菅生線の旧犬蔵工区の仮称犬蔵2丁目地先から鷺沼駅へのアプローチ、これは先ほど指摘しました都市計画道路久末鷺沼線にアプローチをするわけでありますけれども、東名高速の下をくぐる約400メートル、その整備についても求めてきたわけであります。既に鷺沼駅再編整備の再開発準備組合からも、鷺沼駅前のイメージ図、そういうものが明らかになったわけであります。また、区役所等の公共機能の整備も本年度中にはその内容が確定すると、そのようなスケジュールになっているわけありますけれども、改めて道路整備についての対応を伺っておきます。

◎奥澤豊 建設緑政局長 梶ヶ谷菅生線についての御質問でございますが、鷺沼駅周辺再編整備につきましては、これまでさまざまな方々から広く御意見をいただくとともに、8月開催の中間報告まちづくりフォーラムでは、駅周辺の交通環境の改善や路線バスネットワークの充実など、公共交通による駅アクセスに関する取り組みについて説明させていただいたところでございます。梶ヶ谷菅生線の整備につきましては、議会の場で御要望をいただいているところでございますが、平成31年2月に公表が予定されている仮称鷺沼駅周辺再編整備に伴う公共機能に関する基本方針案のほか、路線バスネットワークの充実に向

けた検討や、再開発事業に伴う将来交通量の予測、準備組合による交通処理計画等が関係してまいりますので、それらの状況や宮前区の移動性なども踏まえ、関係局と連携を図りながら、適切に判断してまいりたいと考えております。以上でございます。

◆織田勝久 委員 早期にぜひ適切に判断をお願いしたいと思うんですね。これについてはかなり前から議論させていただいていまして、それで一番の課題は、今の道路整備プログラムが既に策定されて、ほぼ完成になる。要は、パブリックコメントにかかるというタイミングの時期にこの鷺沼駅前再整備という方向があらあら具体化してきて、そのときにしっかりこの鷺沼駅前再整備の目的というのがまず一つ、バスを中心とした公共アクセスの利便性の向上が一つの大きな柱だということの議論の中で、道路整備プログラムの中でこの梶ヶ谷菅生線をしっかり位置づけられないのかと、そういう議論をしてきた経過があるんですね。その時点で既にこの梶ヶ谷菅生線についての評価というものは、残念ながら現道がありませんから、そもそも定量的な評価の対象にならなかった。その定量的評価については全くゼロですよ。それから、定性的な評価についても、すごくいい指標があるわけですよ。公共交通支援とバス路線の支援とか公共交通利用促進とかそういう項目があるんだけど、それについても当時はゼロということでした。だから、道路整備プログラムと川崎市総合交通計画の策定、総合交通計画のほうが上位計画になりますから、それが策定される時間軸が後先になっちゃっているんで、しっかり総合計画の方向性も見えてきている、鷺沼駅前の再整備の方向性も見えてきているんだから、この道路整備プログラムの中にしっかり位置づけてほしいという議論もしてきたんですけど、残念ながら間に合わなかったというような経過があるわけですよ。

その質問のときに、当時の金子建設緑政局長からは、時期を含めて適切な対応を図ってまいりたいというような、道路整備プログラムの見直しについてはそういう御意見をいただいているんですけども、ただ、道路整備プログラムは平成37年までですから、平成37年の時点で適切に見直しをしていただいても、先に鷺沼駅前の再整備ができちゃうわけですから、そういう意味でいきますと、さんざん議会で質問させていただいているように、この鷺沼駅前の再整備ということにあわせて適切な御判断と言っただけでございますので、その方向性をしっかりつくっていただきたいというお願いを再度させていただきたいと思います。それで、鷺沼駅前の再整備につきましては、長い歴史がありますけれども、今の奥澤建設緑政局長が交通政策室担当課長でおられたときに、いろいろ骨を折って汗を流していただいたという経緯もあって、その方が今、建設緑政局長をされているということにも一つの縁を感じますので、ぜひ建設緑政局の立場でしっかり御支援をいただきますように改めてお願いを申し上げて質問を終わります。